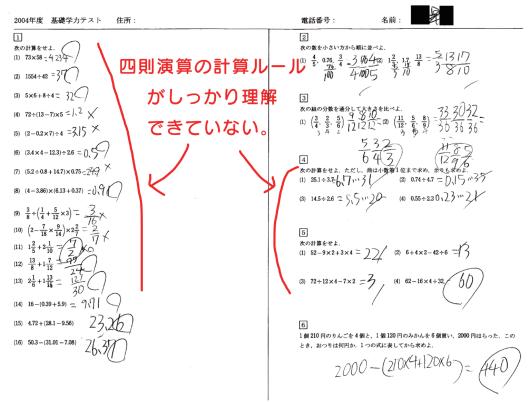
## 算数さえ十分に分からなかった子が 進学校(伊勢高)で学年トップに

S 君は地元の公立中学に入学と同時に青木塾に入塾しました。下の資料は入塾時に彼に受けてもらった基礎学力テストの結果ですが、ご覧いただければ分かるように、単なる計算ミスではなく、四則計算の計算ルールそのものが十分に理解できていないことが疑われるような結果でした。通例、中学入学時にこのレベルの学力だと、中学の勉強にはついていけない可能性が高いと言えます。ましてや高校の勉強が分かるようになるなんて、普通だったら考えられません。今回は、そんな S 君がその後どんなふうに成長して行ったか、それを紹介したいと思います。



下の資料は、高校入学直前の模試(「三進連」は当時、メジャーな模擬試験でした。)の結果です。この模試で全体の正答率が7割程度というのは、公立中学の上位1割に入るくらいのレベルです。まあ、悪くはないが、特に良くもないって感じですね。この時期、数学はようやく平均レベルに追いつくことができました。青木塾では中1、中2の段階は英語と数学に特化した授業を行い、中3になると5教科全部を指導していますが、主要科目の英語がかなり上位であることがうかがえますね。



彼はその後、見事、第1志望の伊勢高に合格したのですが、小学校時代の彼のことを知る近所のお母さん方の間では、 伊勢高に合格したことが相当驚きをもって受け取られたと聞きました。何せ、彼は小学校時代とても腕白で勉強も得意で はなかったそうですから。

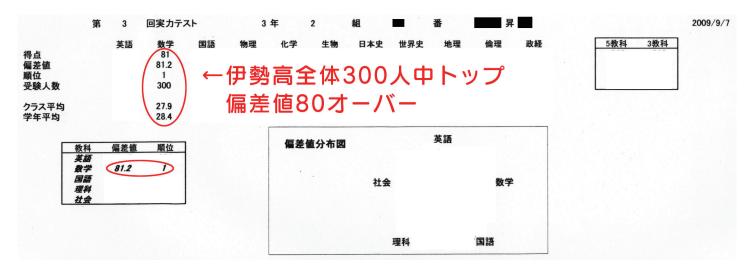
さて、次の資料は、彼が伊勢高校に合格して最初に受けた 1 学期中間テストの数学の結果です。数学 I ①は平均レベルですが、数学 I ②は学年 318 人中 298 番で、ほぼ最下位に近い成績でした。皆さん、よくご存じのように、これくらいの数学の成績で高校生活をスタートした子は、学年が上がるごとに数学が分からなくなり、最終的には受験に数学のない私立文系の大学に進むのが通例です。

実は、当時、こんなエピソードがありました。彼が余りにしつこく質問をするので、担当の数学の先生が「お前は数学が出来るようにはならない」と面と向かって言ったというのです。塾に来るなり私にそう訴えた彼に対し、「生徒にそんな暴言を吐く教師はクソ教師だ。お前は今まで通り自らを信じて徹底して努力を続ければそれで良い」と言い聞かせたことを今でもはっきり覚えています。

1 学期中間			4 組 6席			席	2007/7/12				
	現代文	古典	倫理	政経	数学I①	数学1②	理科総合A	生物I	OCI	英語 I	全教科
得 点		14.			67	27					
偏差値				1	49.0	31. 7					
クラス 順位					14	34		_			
学年順位					(180)	(298)	←特は	(2) II	最下位	レベ	
受験人数					317	318	יי עו	10	AX-1-1-		
クラス平均					58.8	47. 4					
学年平均					68.7	57.8					

さて、いよいよ最後の資料ですが、ご覧のように高校最後の実力テストで彼はトンデモないことをやらかしました。何と苦手だったはずの数学で学年トップになったのです。学年平均が28.4点のテストで81点を取り、学年偏差値は何と驚異の81.2を取ったのです。アッパレという以外に表現のしようがありません。高1の時に暴言を吐いた数学の教師殿、どうです。思い知りましたか。人間の底力を甘く見ちゃいけません。

更に、これをご覧の皆さん、青木塾って本当に凄いでしょ。こんなこと、他の塾や学校では絶対に不可能だと思いますよ。



申し遅れましたが、実は彼、某有名私大を卒業し、現在では誰もが知る企業で仕事をしています。嬉しいことに、卒業 して何年も経つのに、いまだに時々顔を見せに来てくれます。まさに教師冥利に尽きますね。